

令和5年度第2回 唐津市総合教育会議 結果概要

1 日時

令和6年2月20日（火） 16:00～17:20

2 場所

唐津市役所 本庁舎3階 災害対策本部室

3 出席者

峰市長、栗原教育長、篠原教育委員、宮崎教育委員、石山教育委員

4 事務局

〔政策部〕濱口部長、森市政戦略課長、通山係長、古賀主査、犬丸副主査

〔保健福祉部〕田中部長、楠田副部長（こども家庭課長）、岩野係長

〔教育委員会事務局〕中山部長、白水副部長（教育企画課長）、坂口副部長（生涯学習文化財課長）、森教育総務課長、栗本学校教育課長、古場学校支援課長、岡田学校給食課長、藤井近代図書館長、竹下係長

5 議題

- (1) 学校の統廃合について
- (2) 放課後児童クラブの現状と課題について
- (3) 次期唐津市教育大綱の策定について

6 概要

(1) 学校の統廃合について

これまでの学校の統廃合を進めてきた経緯、検討状況及び今後の方針等について教育委員会事務局より説明を行った。

意見等は次のとおり。

（宮崎委員）

玉島小学校と平原小学校の統合の話は何年も前から検討されていると思うが、現在、どのような状況なのか。

(教育委員会事務局)

玉島小学校と平原小学校については、まず、平原小学校が複式学級を有したため統合について説明を行った。その後、平原小学校の保護者と地域の方が統合を考えるための会を立ち上げられ、協議が行われた。最終的な会の結論としては、近隣の玉島小学校も児童数が減少しているため、統合してもすぐに複式学級が生じることが考えられることから、浜崎小学校を含めた3校での統合が良いという結論となった。それを受け、教育委員会では、玉島小学校の方へ、平原小学校の意向を説明し、また、玉島小学校の保護者を対象に統合についてのアンケートを行った。アンケート結果は6割程度が統合に賛成であり、2回目のアンケートを行った際も、6割程度が統合に賛成であったことから、統合に向けた準備委員会を立ち上げ、協議を進めていきたい旨の説明を行ったところ、最終確認として再度アンケートを行ってほしいと保護者から要望があった。そのため、3回目のアンケートを行ったところ、前回のアンケート結果に比べ、統合に反対という回答者が若干増える結果となり、PTAの役員の皆さまからは統合の必要性は認めるが、統合については一旦見送りたいという意見があった。教育委員会としては、統合への一定の賛同があるため、協議を進めたいと伝えているが、協議は進まず、現在の状況に至っている。

(宮崎委員)

保護者の中には、教育委員会から何も言っていないから進んでいないという意見も聞く。統合の期限を決めて進めていただければと思う。

(峰市長)

アンケートをとった時期などの時系列、また、賛成と反対の割合を教えてほしい。

(教育委員会事務局)

1回目のアンケートは令和3年5月に行い、2回目を令和3年12月から令和4年1月までにかけて行い、3回目を令和4年12月に行った。3回目のアンケート結果を受け、令和5年3月に玉島小学校から統合協議の見送りについて連絡があっ

た。割合については、詳しい資料を持ち合わせていないため、後ほど確認する。

(篠原委員)

伊岐佐小学校に通っている児童の保護者から小学校の統合が決まったと聞いたが、実際にはまだ決定はしていない。保護者としては複式学級が2学級もあり、児童が減っている状況では学校として厳しいと感じてある。私も長い間、教育現場に携わっており感じることは、学校の人数は教育環境の要素の一つである。複式学級については、1人の先生が2学年の授業を同時に進めていくため、物理的にも厳しい状況である。中学校現場にいた時によく感じていたのは、子どもが集まればトラブルは生じる。良いことばかりではなく、負の面も必ず生じ、それがいじめに発展することもあり得る。そういう時にクラス替えができれば、色々と配慮ができ、人間関係の解消まではできないにしても、軽減はできると感じていた。そのため、できるならクラス替えができる規模が望ましいと思うが、現実的に現在の減少状況のなかでは、単学級でも致し方ないということもわかる。しかし、複式学級については解消すべきであると考えている。

(教育委員会事務局)

先ほど市長から質問があった、アンケートの割合について、令和3年度では「賛成」、「どちらかといえば賛成」は67.4%で、「反対」、「どちらかといえば反対」が26.9%であったが、令和4年12月の3回目では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」が55%、「反対」、「どちらかといえば反対」が40%となった。

(石山委員)

統合に反対する方の理由は何か。

(教育委員会事務局)

3回目のアンケートの自由意見の項目に記載されている内容を見ると、「少人数

のデメリットの方が多いかもしれないが、今のクラスの友達や先生の名前、顔が一致する環境、また、親の顔までわかるという現状がすごく良いと感じている。」、
「浜崎小学校は生徒数も多く学校のスペースも狭いため。また、浜玉地区の将来を考えた場合、玉島小学校を残した方が良いと思う。」、「3校を1つにして、大きな規模の学校にすることには不安を感じる。」、「浜玉地区の小学校を1つにしてしまうということに、デメリットを感じる。」、「大人の都合ではなく、子供たちの教育環境を、専門家などを交えて、バランスのよい学校づくりを目指して欲しい。」、「少人数でよかったと思えることの方が多く、大人数ならよかったのと思うことがない。」、「統合まではせず、月に数回浜崎小との交流があってもいいと思う。」などの意見があった。

(石山委員)

今の回答を聞いて、学校の選択制は導入するほうが良いと感じた。今は多様性の時代である。保育園や幼稚園は、旧郡部から旧唐津市内に通わせている方もおり、選択をされている方も多い。学校を選択することは、これからの教育の上で重要なことであると思う。

(栗原教育長)

小規模の学校の方は、少人数の良さをたくさん味わっておられる部分があって、そこから大規模の小学校と一緒にすることは、勇気が必要であると感じる。また、統合についての反対意見が増えると、役員の方々もなかなか推進ができなくなったのではないかと思う。しかし、統合することで、クラス替えができるなどの良いこともある。子ども達は、リモートで意見交換を行っているが、実際、中学生になり、一緒の学校になると、様々なタイプの子どもがいることにビックリする子がいる。そういった出会いは必要なことであると考えるため、統合を進めていくということについて理解していただければと思う。

(峰市長)

資料を見ると、予測ではあるが令和11年に、小学校で6校、中学校で3校が複式学級のある学校となっている。唐津の教育としてこれで良いのかとってしまう。私は、複式学級を経験したことがないが、複式学級を経験した方の話を聞くと大変厳しい環境であると感じた。なんとか、この複式学級を解消しなければいけないと思う。そのためには、解消するための施策が必要であり、それを考える時期にきている。

資料に対応のひとつとして、学校選択制のことについて記載されているが、これは、具体的にどういうことなのか。また、唐津市において実施できるのか。

(教育委員会事務局)

資料に挙げている学校選択制の5つのパターンは、文部科学省が主な例として示しているものである。現在、この5つのパターンのメリット、デメリットを示し、実施について通学区域審議会で審議していただいている。自由選択制については、完全に通学区域をなくし、自由に通学する学校を選べる制度であるため、デメリットとして、大規模校に希望が集中し、さらに大規模な学校となり、逆に小規模校に児童・生徒が集まらず、さらに小規模な学校となる可能性がある。実際に他市では、そういった事例が起こっている。そのため、通学区域審議会においては慎重に審議していただいている。

(峰市長)

今まで統廃合した学校は旧郡部が多い。旧唐津市では、東唐津小学校も複式学級がある。そこも含め、今後、統廃合を考えていかなければならない。まずは子ども達のことを1番に考え、地域の方にご理解をいただき、進めていかなければならない。そういった時期にきている。

(2) 放課後児童クラブの現状と課題について

放課後児童クラブの待機児童や実施場所の状況、また、学校施設の活用に向けた取組について保健福祉部から説明を行った。

意見等は次のとおり。

(石山委員)

今後の課題について、「学校、教育委員会、保健福祉部が密に連携し」となっているが、業務を委託している社会福祉協議会との連携はどうなっているのか。

(保健福祉部)

業務については、社会福祉協議会に委託をしているが、場所の確保については、唐津市が学校と話をしながら確保している。社会福祉協議会の方には支援員の確保に努めていただいております、そういった業務において連携している。

(石山委員)

放課後児童クラブでタブレットを使用できるようになったが、支援員にはタブレットの取扱いなどの説明はあっていない。学校ではタブレットを使うときの5つの約束などがあるが、支援員には説明があっていないため、子ども達は5つの約束など関係なく使っている状況である。放課後児童クラブでタブレットを使用できることだけではなく、そういった取扱いについても支援員に説明するなど、社会福祉協議会との連携もとっていただきたいと思う。

(保健福祉部)

タブレットについては、学校の方で使い方等の指導をされているところであり、放課後児童クラブにおいては、宿題の使用以外には使用しないというルールを設けている。あくまで、子ども達が守ることではあるが、支援員の方も把握していただく必要があると思うので、そのことについても学校と連携し、情報共有したいと思う。

(篠原委員)

資料に待機児童数が示されているが、放課後児童クラブに通えなかった児童はどのように対応されているのか。

(保健福祉部)

待機となっている児童は、受入れができていないということである。

(篠原委員)

ということは、家庭の方で何らかの手立てをされているということか。

(保健福祉部)

基本的には低学年を優先して受入れているので、待機となっている児童は高学年である。そのため、ご家庭に子どもだけである場合や親せきの方が見られているというところもあるかと思う。

(篠原委員)

待機児童を減らすための対策としては、どのようなことを考えているのか。

(保健福祉部)

希望される方全員を受け入れることがベストではあるが、実施場所等の課題があるため、なかなか難しい状況である。今年度、長松小学校区域に民間の放課後児童クラブができ、令和6年度には鏡山小学校区域にも民間の放課後児童クラブができる予定となっている。そういった民間の事業者と協力し、待機児童を減らしていきたいと思っている。また、夏休みに待機児童が増えるのは全国的な問題であるため、国から夏休みだけ開所する放課後児童クラブも交付金の対象とする方針が示された。場所の確保は必要であるが、今後、夏休みだけ開所する放課後児童クラブを検討したいと思っている。

(篠原委員)

民間の放課後児童クラブには補助金などの支援はあるのか。

(保健福祉部)

国からの交付金は、民設、公設のどちらであっても対象である。

(峰市長)

民間の放課後児童クラブは利用料金が高いのではないかと思うが、民間の放課後児童クラブの魅力は何かわかるのであれば教えてほしい。

(保健福祉部)

唐津市は8月を除いて、月4,000円であるのに対して、民間は月1万円程度となっている。しかし、民間の放課後児童クラブでは、料理教室や野外活動を行うなど、特色ある活動が行われている。そのため、民間の放課後児童クラブを選ばれる方もおられる。

(峰市長)

令和5年12月27日付けで唐津市と唐津市教育委員会との間で「学校施設を活用した放課後児童クラブの運営」に関し、協定を締結した。学校を活用することは、学校施設の管理上、先生方も厳しいと感じてあるかもしれないが、子ども達のことを思えば、学校を活用させていただくことが1番ありがたいことである。

(栗原教育長)

国が待機児童の解消に向けて、方向性を示している。学校は、学校の教育活動と放課後児童クラブでの指導の違い、施設の利用の仕方について、また、職員の勤務時間と放課後児童クラブの時間の関係で学校施設を放課後児童クラブで使用することは避けたいと思っているところもある。そのほか、学校のセキュリティの問題もあるが、国が方向性を示していることから学校側も理解し、これらの問題を解決し、

進めていかなければいけない。教育委員会としても、今回締結した協定に基づき、連携を行っていきたいと思っている。

(峰市長)

施設のセキュリティ問題は大事なことであり、この問題については十分に検討し、学校施設活用に向け、連携していきたい。

(3) 次期唐津市教育大綱の策定について

現在の唐津市教育大綱の期間が令和6年度までとなっているため、次期唐津市教育大綱の策定のスケジュール等について政策部から説明を行った。

意見等は次のとおり。

(峰市長)

現在、第3次唐津市総合計画の策定作業を行っており、教育大綱の策定に当たっては、第3次唐津市総合計画を踏まえて策定する。そのため、教育大綱の策定は、総合計画の策定に合わせたスケジュール感となっている。

以下余白